

生徒心得

長門高等学校 校歌

一、緑ヶ丘に聳えたつ

心のふる里わが母校

学びの窓は明らけく

自然の大を友として

われら自由に伸び行かん

二、桜は薫る花尾山

音信川のせせらぎに

躍る若鮎健やかに

英智と愛を培かいて

共に讃えて歌わなん

三、秀麗比なき青海島

民主の潮寄するところ

鯨波のしぶき眺めつつ

まひろき気宇を養いて

平和の礎 築かなん

四、清風精神受け継ぎて

長門の空に咲き誇る

文化の園に自主の旗

かざして競う友われら

校風ここに打ち樹てん



長門高等学校

氏名

氏名	
----	--

長門高等学校

建学の精神

学ぶ志のある者に対し

門戸を開く

校訓

自治

自学

自尊

生活信条

五訓

素直

感謝

謙虚

奉仕

謙讓

長門高等学校学則（抜粋）

第1章 総則

第1条. 本校は教育基本法、学校教育法に基づき、中学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、高等普通教育、及び専門教育を施すことを目的とする。

第2条. 本校における教育については、前条の目的を実現するために、次の各号に掲げる目標の達成につとめる。

- (1) 中学校における教育の成果を、更に発展拡充させて、国家及び社会の有為な形成者として、必要な資質を養うこと。
- (2) 社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な技能に習熟させること。
- (3) 社会について広く深い理解と、健全な判断力を養い、個性の確立に努めること。

第2章 課程の組織. 修業年限定員並びに休業日

第3条. 本校には通常の課程による普通科及び商業科をおく（略）

第4条. 本校の学年は、4月1日に始まり翌年3月31日終わる。

II. 学年は、これを3学期に分ける。

第1学期 4月1日から 8月31日まで

第2学期 9月1日から12月31日まで

第3学期 1月1日から 3月31日まで

第5条. 本校の休業日は、次の通りとする。

- (1) 日曜日。
 - (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日。
 - (3) 学年始め休業日 4月 1日 ～ 4月 7日
 - (4) 夏季休業日 7月21日 ～ 8月31日
 - (5) 冬季休業日 12月25日 ～ 1月 7日
 - (6) 学年末休業日 3月21日 ～ 3月31日
 - (7) 土曜休業日 土曜日を休業日とすることができる。
 - (8) その他の休業日 教育上その他、特に必要と認めた日。
- II. 教育上必要があり且つやむを得ない事情があるときは、前項にかかわらず休業日に授業を行うことがある。
- III. 非常変災その他、急迫の事情があるときは、臨時に授業を行わないことがある。

第3章 教育課程及び授業日数

(略)

第4章 入学. 休学. 退学. 卒業及び賞罰

第11条. 入学を許可された者は、所定の用紙による誓約書、保護者及び連帯保証人（以下保証人という）連署による保証書、並びに戸籍抄本、及び住民票を指定された期限内に提出しなければならない。

II. 保護者は父母またはこれに準ずる近親者（行政施行上の後見人を含む）であって、生徒を監督するに適当な者でなければならない。

Ⅲ. 保証人は原則として山口県内に居住する満 25 才以上の、独立の生計を営む者であって、確実に保証人としての責務を果たし得る者でなければならない。本校が保証人として不適当と認めた時は、変更しなければならない。

Ⅳ. 保護者及び保証人は、その保証する生徒の在学中、当該生徒の一身に関する全ての事項について、連帯してその責に任ずべきものとする。

Ⅴ. 保護者または保証人が改姓、転籍または住所を変更したときは、1 週間以内に、その旨を届け出なければならない。

Ⅵ. 保証人の死亡等により保証人を変更したときは、一ヶ月以内に、保証書を提出しなければならない。

第 12 条. 在籍中の生徒で、他の学校に転校を希望する者は、事情によって、これを許可することがある。

第 13 条. 生徒が病気その他の理由で、引き続き 2 ヶ月以上出席することができないときは、その理由を具し、保護者及び保証人連署で願い出て、許可を得れば休学する事ができる。

Ⅱ. 休学は当該学年限りとし、期間は 1 年以内とする。但し、特別の事情がある時は、更に 1 年を限って延長する事がある。

Ⅲ. 休学をした生徒が復学をするときは、学年始めか学期始めとする。

Ⅳ. 休学期間は在学年数、及び在学月数には算入しない。

第 14 条. 退学しようとする生徒は、その理由を具し、保護者及び保証人連署で願い出て、許可を受けなければならない。

Ⅱ. 特別な事由により全日制課程及び通信制課程の課程相互の転籍を願い出た者に対して、そのものが習得した単位に応じて、校長は相当学年に転籍を許可することができる。

第 15 条. 生徒が本校の規則、もしくは命令に背き、または生徒の本分にもとる行為があったときは、これを懲戒処分に付すことがある。

Ⅱ. 懲戒は、訓告、停学、退学の 3 種とする。

Ⅲ. 次の各号の一に該当する者は、退学処分に付すことがある。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者。

(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者。

(3) 正当の理由がなくして、出席が常でない者。

(4) 学校の秩序を乱す行為、その他生徒としての本分に反した者。

第 17 条. 各学年の課程の修了は、平素の成績を評価し、学年末において認定する。

(2) 前項の修了認定には、当該学年の出席すべき数の内、3 分の 2 以上の日数を出席し、修得すべき科目の単位数を修得していなければならない。

但し、校長が特別に支援を必要とする生徒と認めた生徒については、このかぎりではない。

(3) 休学の後、復学をした生徒の学年修了の認定には、本校における同一学年の在学月数が、休学前後を通算して満 12 ヶ月以上を必要とする。

第 18 条. 生徒が、長期欠席、その他の理由により所定の単位を修得せず、進級させることが適当と認め難いときは、原学年に留めおくことがある。

Ⅱ. 当該学年の留年は一年限りとする。なお留年となった生徒は、学年の当初から就学しなければならない。

Ⅲ. 退学をしたときは、出席した日数及び修得した単位数は、特別に認定することがある。

第 19 条. 生徒が本校所定の全課程を修了したと認められたときは、卒業証書を授与する。

第 20 条. 成績優秀にして他の模範となる生徒は、これを褒賞する事がある。

第5章 授業料・入学金及び入学手続料など

第21条. 授業料・入学金及び入学手続料などは次の通とする。 (略)

第22条. 生徒の在籍中は、出席の有無にかかわらず、授業料を毎月10日までに、その月分を納入しなければならない。

Ⅱ. 生徒が休学したときは、前項の規定にかかわらず、その始期の属する月の翌月から授業料を免除することがある。

Ⅲ. 授業料その他校納金の納入を、3ヶ月間滞納した時は出席を停止させることがある。また5ヶ月間納付しない時は退学を命ずることがある。

第23条. 既納の入学検定料及び入学手続料は理由の如何にかかわらず返還しない。既納の授業料及び入学金は原則として返還しない。但し、特別の事情を有し、減免が適当と認められる生徒については、授業料及び入学金を減免することがある。

生徒心得

1. 学習

学習は生徒の本分である。学習に専念して所期の目的を達成すべく、努力しなければならない。

2. 礼儀

礼儀はその人の人格を表わすものである。心に留めて決して疎かにしてはならない。

生活信条五訓の精神『素直・感謝・謙虚・奉仕・謙讓』を励行すること。

- (1) 登下校時は、感謝の意をこめ、校門で敬礼する（この行為は建学の精神に基づく）。
- (2) 来客には挨拶を忘れず、失礼のないよう応対すること。
- (3) 目上の人に接する時、学校の内外を問わず常に謙虚な態度、正しい敬語の使い方を心掛ける。
- (4) 言動に気をつけ、相手への配慮を忘れない。

3. 服装・容姿

服装は心の表れである。生徒として気品を高めるよう努めること。

- (1) 服装については、別に定める規定を遵守すること。
- (2) 容姿や行為、態度は長門高生としての品位を失わないように心掛けること。
また、学用品以外の不必要な物を持参してはならない。

4. 欠席、欠課、忌引

- (1) 生徒の登校時間は、規定の時間とする。
- (2) HRの出欠席は、教科科目の授業に準じて取り扱う。
- (3) チャイム後入室する者は遅刻、その時間欠席した者は欠課、授業を退席した者は早退とする。
- (4) 遅刻、欠席、欠課は、それぞれの時間ごとに記録する。
- (5) 生徒が病気、その他、やむを得ない理由で欠席する時は、その旨を職員朝礼までに保護者に連絡してもらうこと（BLENDを利用して）。
- (6) 長期にわたり、病気で欠席しようとする時は、その旨を担任に申し出ること。
- (7) 生徒が欠課又は早退しようとする時は、担任に申し出て許可を受けること。
- (8) 忌引、感染症による出席停止は、欠席にはならない。
- (9) 忌引の期間は、次の日数をこえないものとする。

ア. 父母（養父母を含む）	7日
イ. 祖父母、曾祖父母（同居家族）	5日
〃 （別居家族）	3日
ウ. 伯叔父母、兄弟姉妹	3日
- (10) 天災、交通機関の乱れ、受験等の理由による欠席や遅刻、早退の場合は出席とみなすこともある。
- (11) 生徒は、登校後無断で外出してはならない。止むを得ない事情で外出する場合は、担任にその理由を相談し、対応を考えることとする。
- (12) 生徒は、病気のため授業を受けることが困難な場合、担任及び養護教諭に申し出た上、保健室で静養することができる。無断で保健室に出入りすることは禁止する（原則、1時間休養を認め、その後は要諦を診て判断する）。
- (13) 静養中は養護教諭の指示に従うこと。
- (14) 使用した寝具は、きちんと整頓して退室する。

5. 校内生活

- (1) 学習と学習時の態度
 - ア) 始業の2分前に着席し、授業態勢で静かに教員を待つ。
 - イ) 授業の始めと終わりは、起立、敬礼の後、着席をすること（分離礼を意識する）。
 - ウ) 座席を勝手に移動してはならない。
 - エ) 学習環境の整備に努めること。
 - オ) 教員に対しては、礼儀をわきまえ、発言や態度に気をつけること。
 - カ) 授業中は、他教科の教科用具や、その他、不必要な物品を出してはならない。
 - キ) 始業合図後5分を経過しても教科担任が来られない場合は、学習委員は、職員室へ指示を受けに行くこと。
 - ク) 予習・復習に努めること。
- (2) 課外授業について
課外授業は、進学・就職のための実力養成の場である。常時放課後2時限程度開講し、長期休業中は別に指示する。
- (3) 考査について
考査は、学習効果を判定する重要な資料となる。従って、十分な準備を行い、真剣な態度で受査し、実力を発揮するよう心掛けること。
- (4) 公共物の愛護
 - ア) 常に校舎内外を整備し、学ぶ環境としてふさわしい雰囲気をつくることに心掛けること。
 - イ) 校舎、校具、運動用具、その他の公共物は大切に扱い、時間外の使用は担当教員の許可を得る。使用後はもとの位置に整頓する。次の使用者がすぐに使えるように配慮すること
 - ウ) 校舎、校具、運動具等を誤って破損、紛失した際は、直ちに担当教員に申し出ること。
 - エ) 校地内の樹木、草花等を愛護し、進んでその育成につとめること。
- (5) その他
 - ア) 校舎内においては静粛を旨とする。
 - イ) 集合時には、静粛かつ速やかに行動すること。
 - ウ) 自販機の飲み物・食べ物は、業間に購入してはならない。ペットボトル・パックジュース・パンは教室に持ち込んでよい。が、ただし、ゴミの分別を適切に行うこと。
 - エ) 所持品は必ず記名し、責任をもって自己管理する。むやみに放置したり無断で他人のものを使用したりしないこと。紛失したときは、直ちに担任、又は他の教員に届け出ること。
 - オ) 貴重品は、鞆箱のロッカーに保管するか、担任又は他の教員に依頼し、紛失しないよう注意を払うこと。
 - カ) 落とし物は直ちに担任、又は他の教員に届け出ること（但し、校外の場合は直接、警察に届けること）。
 - キ) 集会の開催、又は外部学生合同のサークル活動等、また印刷物の発行、配布又は掲示、募金その他これに類することを行おうとする時は、必ず教員に申し出て学校長の許可を得なければならない。
 - ク) 下校時は、室内の整頓に留意し、室内の戸締り消灯は確実にして退出すること。冷暖房器具は生徒が勝手に作動してはならない。
 - ケ) 掲示物、校内放送など学校からの伝達事項は、確認を怠らず情報収集に努めること。
 - コ) スマートフォンの学校への持込みは許可制とする。

6. 校外生活

(1) 通学途上

- ア) 長門高生としての品位を保ち、行動すること。
- イ) 交通マナーを守ると共に、指導員等の指示に素直に従うこと。
- ウ) 登下校時は、不必要な寄り道をしない。
- エ) 列車、その他の交通機関を利用して通学する者は、乗降及び車中の態度を慎み高齢者・病弱者には進んで席を譲るよう心掛けること。
- オ) 通学途上、不測の事故が発生した時には、安全確認を第一に行い、その後直ちに学校に連絡すること。冷静に対処し、事故の被害を最小限にとどめること。
- カ) 自宅以外の場所から通学する者は、所定の様式により、学校長の許可を得ること。
- キ) スクールバスの運転手への挨拶と感謝を忘れないこと。
- ク) スクールバス内での飲食は控えること。
- ケ) スクールバス乗車中は公共の交通機関と同様にマナーを守り、静かに利用する。目的地到着後は速やかに降りる。

(2) その他

- ア) パチンコ店やその他不健全な遊技場などへの出入りは、たとえ保護者同伴でも許可しない。ただし、カラオケ店については保護者同伴であれば許可をする。未成年者同士での利用は、青少年育成協議会の協定で禁じられている。
- イ) 飲酒や喫煙、大麻・覚せい剤等の違法薬物の乱用、暴力、脅迫行為など不法行為をしてはならない。
- ウ) 交友の選択には注意を払い、生徒としての生活が乱れるような交際は慎むこと。
- エ) 外出の際は予め家族に行き先を告げ、所在を明確にすること。外泊については原則認めない。
- オ) アルバイトは原則として長期休業中のみ許可をする。
- カ) アルバイトを希望するときは、保護者の同意を得て、担任に申し出、所定の「アルバイト許可願」を提出し、学校長の許可を得ること。ただし、学校が不相当と認めたものは許可しない。また、学力不振や問題行動のある者については生徒指導部で協議する。
- キ) 学生運賃割引証（学割）を受ける場合は、担任に願い出て所定の手続きを取ること。
- ク) 生徒が宿泊を伴う活動、行事に参加する場合は、担任又は関係教員を経て学校長の許可を得なければならない。尚、実施にあたっては必ず信頼できる学校関係者及び保護者が付き添うこと。
- ケ) 通学用定期券や学生運賃割引証は、他人に貸したり、譲り渡したりしてはならない。また、期限切れに留意し、早目に購入すること。
- コ) 身分証明書は他人に貸与、譲渡してはならない。尚、期限切れの身分証明書は、速やかに返還すること。
- サ) クラブ或いはサークルなど、学校の内外を問わず団体を結成、加入、もしくは参加しようとするときは、事前に担任に届け出て、学校長の許可を得なければならない。
- シ) SNSの使用においては、自他ともに情報の取り扱いに十分注意を払うこと。
- ス) SNSに人を傷つける書き込み、画像・動画を載せない（誤解を招くような投稿もこれに該当する）。
- セ) メッセージアプリ、通話アプリ等で不特定多数者と交流しない。
- ソ) 有害であると思われるサイトにアクセスしない。

頭髪・服装に関する規定

本校が定める生徒の頭髪・服装は、「いつでも就職・進学試験に臨める状態である。」を通常とする。

【 頭 髪 】

いつでも就職・進学試験に臨める髪形とする。

《 共 通 》

- ◇ヘアカラー、ブリーチ、パーマ、ヘアアイロンは禁止。
- ◇整髪料を使用してはならない。
- ◇眉を細くしたり、短くしたり、剃り落としたりしてはならない（ムダ毛の手入れはエチケットとするが、アイブローは不必要として認めない）。
- ◇先天的な地毛の色素や髪質等での相談は、入学式後に応じる。それ以降の届け出は応じない。
- ◇化粧をしてはならない。（ビューラー、マツエク、カラーコンタクト、タトゥー、ピアス、アイプチ、色付きリップも禁止）
- ◇香水をつけてはいけない。

《 男 子 》

以下の、規準を定める。

- ◇前髪は目にかからない長さまでとする。
- ◇横髪は耳にかからない長さとする、
- ◇後髪は襟にかからない長さとする。
- ◇揉み上げは、耳の長さを目安とする。
- ◇髭はきちんと剃り、一部を残したりしてはならない。
- ◆刈り上げの長さは3mm以上とする。
- ◆ツブブロックにする際、刈り上げの露出部分は耳の頭部から3cmまでとする。 } ※追加項目

《 女 子 》

- ◇髪が襟にかかる場合は、黒または紺など単色のゴムで結ぶか、編むこと。
また、髪を結ぶ時に頬に髪が垂れ下がらないように黒又は紺のヘアピンで止めることを推奨する。
- ◇前髪は目にかからない長さとする。

【 服 装 】

制服は、男女ともに本校指定のものとする。

1. 登下校は制服を着用しなければならない。
2. 制服は下記の通り定める。

《 共 通 》

◇学校が指定した学生服(ジャケット、ブラウス、ネクタイまたはリボン、スラックスまたはスカート)を着用する。

◇校内では胸部(左胸)に自分の名札をつける。

◇肌着は、白、黒、紺、グレー系の単色の丸首かVネックのものを着用する。(ブラウスからはみ出ないようなものにする。)

◇ネックレス(スポーツ用品も含む)、指輪、ミサンガ等の装飾品は身に付けてはいけない。

◇ジャケットやネクタイの加工を行わない。

《 スラックス 》

- ・ソックスは黒または紺色の無地で、くるぶしが隠れる長さのもの。(スニーカーソックスは不可)
- ・スラックスには必ずベルトを通して、腰骨の上できちんと締める。
- ・ベルトは黒、紺、濃い茶色で装飾品がついていないものを着用する。
- ・冬季において、防寒のためのタイツは着用可。

《 スカート 》

- ・ソックスは学校指定のソックスを着用し、伸ばした状態で履くこと(弛ませない)。
ハイソックスを基本スタイルとし、オプションでショートソックスの着用を認める(2024年度～)
※式典ではハイソックスを着用すること。
- ・スカート丈は裾が膝中(皿の中中部)の位置にあること。
- ・オプションとしてリボンも付けることができるが、式典ではネクタイを付けること。

●冬季

- ・ジャケットはすべてのボタンをとめて着用する。
- ・防寒着として、学校指定のセーターを着用できる。
※セーターに関しては、冬季と夏季の間の合服としてジャケットを着用せずに学校生活を送ることができる。(合服の着用時期については気温等を見て生徒指導部が判断する)

●夏季

- ・ポロシャツを着用する。(エアコン等で寒い場合は、長袖のポロシャツの着用も可)
- ・ポロシャツは第二ボタンまでは必ず止める。
- ・ポロシャツの下には必ず肌着を着用する。

《 防寒具 》

◇防寒着として、コートやブルゾン、部活動のウインドブレーカーの着用を認める。

(スウェット素材は不可)。

◇マフラー・ネックウォーマー・手袋・タイツ等可

◇使用期間は原則12月から翌年3月までを目途とし、生徒指導部で判断する。

◇マフラーは使用を許可する。

◇防寒具は昇降口にて脱着する。ただし、上記以外の物を着用する場合には許可を受けること。

◇授業中の防寒対策として、ひざ掛けの使用を認める。

◇タイツは黒の無地とする。(ただし80デニール以上のもの)

(1) 冬服・夏服についての着用期間は、下記のとおりとするも、前後一週間程度の移行期間を設ける

冬期間 10月1日より、5月31日まで

夏期間 6月1日より、9月30日まで

(2) その他

◇やむを得ぬ事情により、略装また異装するときは、担任にその旨を申し出て指示を仰ぐこと。

◇体育時は指定の体育用服装とし、シューズは屋内外指定のシューズを混用してはならない。

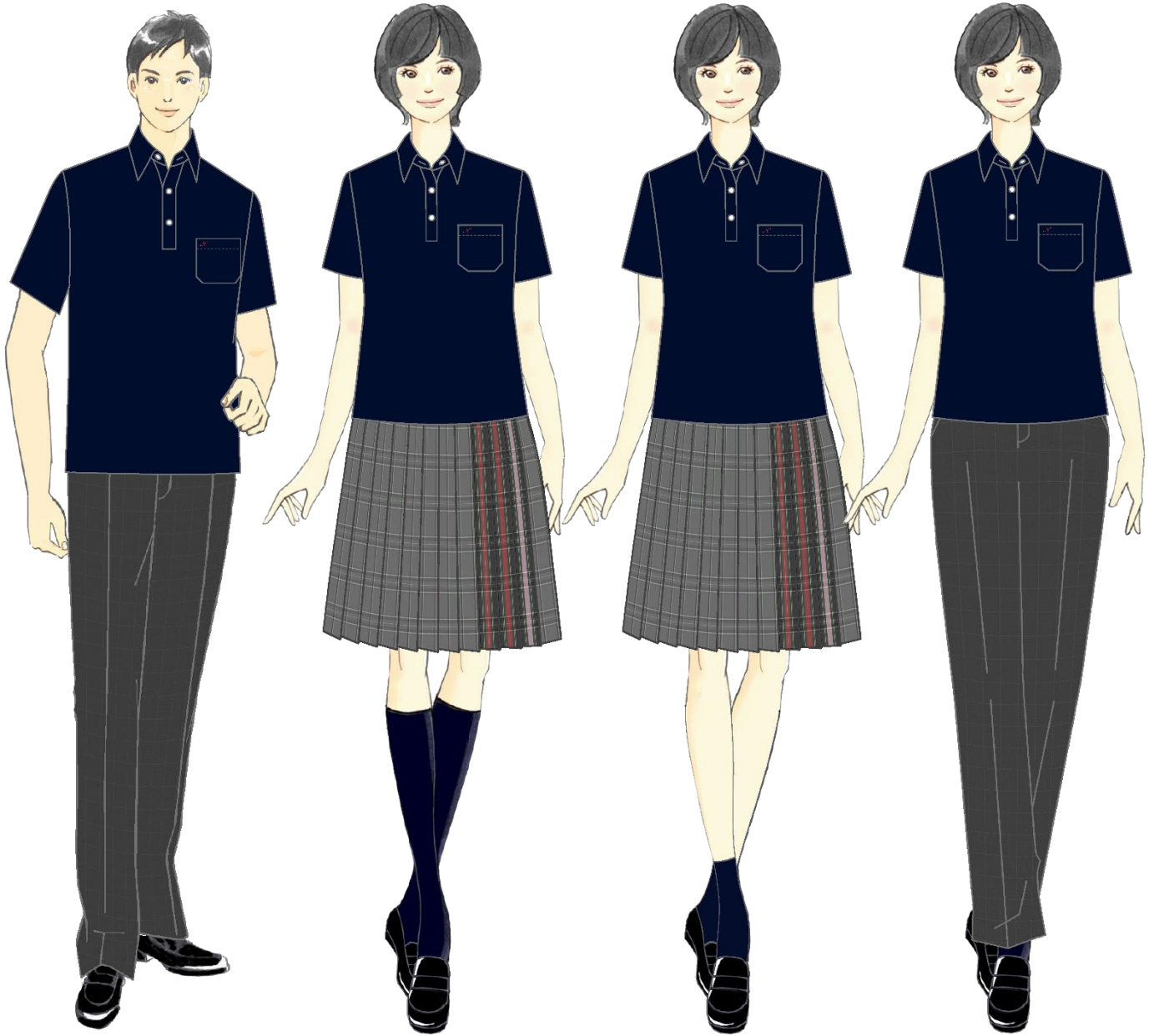
◇靴(通学用、体育用等)、鞆(スクールバッグ)、スリッパ、体育時の服装等は、学校指定のものとする。ただし、セカンドバックとしてスポーツバッグの使用を認める。

キーホルダーは必要以上に付けることがないようにする。

制 服 (冬服)



制 服 (夏服)



車 両 通 学 規 定

車両（自転車）を利用して通学しようとする者は、道路交通法の遵守は勿論のこと、被害や加害、或いは迷惑行為などを防止するため、以下の諸規定に従わなければならない。

1. 自転車通学

自転車通学を希望する者は、保護者の同意を得て学校の許可を受け、下記のことを遵守し通学しなければならない。

- ① 自転車は本人の所有であること。
- ② 使用する自転車は本校が行う通学用自転車としての登録を受け、ステッカーを貼らなければならない。
- ③ 使用する自転車は、必ず防犯登録をし、防犯登録番号を控えておくこと。
- ④ 自転車は常に安全な状態に整備されていること。
- ⑥ 自転車には、必ず反射器材を付けること。
- ⑦ 校地内での乗車は禁止、指定された自転車置き場に正しく駐車し必ず施錠する（校外も同様）こと。
- ⑧ 自転車による通学生は、他人に自分の存在を知らせるために、夕方には早めに点灯すること。
- ⑨ 市街地等で、止むを得ず路上に自転車を駐車する場合は、他人に迷惑の掛からぬよう配慮すること。
- ⑩ 降雨時には雨具を着用し、傘をさしての運転をしてはならない。
- ⑪ 自転車は左側を通行し2人乗り及び並進は行わない。
また、交差点では信号遵守と一時停止・安全確認を行うこと。
- ⑫ 運転中にスマートフォンを使用したり、イヤホンで音楽などを聴いたりしてはならない。
- ⑬ 任意ではあるが、自転車保険への加入を勧める。
- ⑭ 自転車乗車時は、ヘルメットを着用すること（2024年度4月～）

2. その他

通学距離が遠距離で、交通上不便な場合は、その旨を申し出ること。審議の上、応じる。

火災その他の災害について

年2回避難訓練を実施することで、危機管理能力を養い、緊急時に冷静な判断ができるよう心掛ける。

長門高等学校生徒会規程

- 第1条 本会は、長門高等学校生徒会と称する。
- 第2条 本会は、長門高等学校生徒全員をもって会員とする。
- 第3条 本会会員は本会則を積極的に履行する責任がある。
- 第4条 本会は、学校の管理運営に協力し、更に生徒の健全な自主的諸活動を推進し、生徒の共同生活を通じて将来よき社会人としての素養を育成することを目的とする。
- 第5条 本会は、学校長の許可の範囲内に於いてのみ活動する。
- 第6条 本会は、目的達成のために次の会を置く。
学級会・役員会・専門委員会
- 第7条 本会には、次の役員を置く。
会長1名 副会長 男女 各1名
企画・運営7名
- 第8条 役員の仕事は次の通り定める。
会長は、本会を代表し、会務を統括する。
副会長は、会長を補佐し会長支障ある時は、その仕事を代行する。
企画・運営は、本会の諸行事企画運営を図る
書記は、本会の会合及び諸行事記録の作成保管をする。
会計は、本会の会計事務を処理する。
- 第9条 会長・副会長は立候補による総選挙で選ばれ、企画・書記・会計の役員は当選した会長・副会長と生徒会顧問教員を中心に選出する。会員および教員にて承認された後に学校長がこれを任命する。
- 第10条 役員の仕事は1年とし、1月から翌年までとする。
- 第11条 役員の仕事は再選は妨げない。

第2章 総会

- 第12条 総会は、本会会員をもって構成する。
- 第13条 総会は、生徒会最高の議決権を有する。
- 第14条 総会の議長は、会員の中より推薦し、出席会員の過半数の同意を得たものがこれに当たる。
- 第15条 総会は、必要であれば、会長がこれを招集する。但し、全生徒の3分の1以上の動議があれば、臨時に開かなければならない。
- 第16条 総会の開催は、会員の4分3以上を必要とし、その過半数で決議する。

第3章 学級会

- 第17条 学級会は、学級自治に関する事項並びに各委員会提出の議案を審議する。
- 第18条 学級会は、学級全員をもって組織する。

第4章 役員会

第19条 役員会は、役員をもって構成するが、必要に応じて学級委員をはじめ各専門委員を加えて構成することができる。

第20条 役員会は、必要に応じて開く。但し、役員の3分の2以上が要請した場合は、必ず開催しなければならない。

第21条 役員会の招集は、生徒会長が行い、議長となる。

第5章 専門委員会

第22条 専門委員会は、学級・学習・生活・体育・保健・美化・交通・図書・会計及び選挙管理の委員会を設け、委員の互選により各委員長を置く。

第23条 専門委員会は、その専門の仕事を行う。

第24条 専門委員は、各学級会より選出し委員会を構成する。

第25条 専門委員会は、原則として各学期これを開く。但し、必要に応じて臨時に開くことができる。委員会の招集は、各委員長が行い、議長となる。

第6章 会計

第26条 本会の会計は、生徒会費、寄附その他の収入による。

第27条 会員は、定められた会費を納入する。

第28条 本会の会計の現金出納は、本校事務局に委嘱する。

第7章 改正

第29条 会則の改正は、生徒総会に於ける出席会員の3分の2以上の賛成をもって決する。

第8章 付則

第30条 各会は、顧問として教員をおき指導を仰ぐ。

第31条 選挙規則は、別にこれを定める